

報道各位

「福岡ユビキタス特区での携帯端末向けマルチメディア放送 実証実験に関するモニター調査」調査結果（第一回）

～FMリスナーは、マルチメディア放送に「音楽」、「ニュース」を期待～

TOKYO FM が福岡ユビキタス特区（注1）（注2）において実施中の携帯端末向けマルチメディア放送サービスの実証実験について、モニター調査結果の第一回目の結果が判明しましたので、公表させていただきます。

2011年以降にアナログテレビが終了した跡地の周波数であるVHF-LOWを使って、全国でスタートする「地方ブロック向けマルチメディア放送」は、「ラジオでもなくテレビでもない全く新しい放送免許」として、既存のラジオ局にとどまらず、データ放送を駆使した新しいサービスを実現したい新規事業者の参入希望が相次いでおります。

TOKYO FM は、福岡ユビキタス特区の環境を活用して、エイベックス・マーケティング、よしもとファンダンゴ、ぐるなび等とともに、2011年以降スタートする携帯端末向けマルチメディア放送のコンテンツを先取りするものとして、引き続き実験を推進すると共に、2009年12月にかけて継続実施する本モニター調査につきましても、第2回以降、結果判明次第、適宜情報を公表させていただきます。

■調査について

<調査概要>

1. 調査対象： マルチメディア放送モニター（福岡市中央区・早良区にお住まい、または通学している方で、FM福岡の放送をお聞きいただける方）
2. 調査方法： インターネット調査(携帯電話もしくは、PC)
3. 調査期間： 2009年8月11日(火)～2009年8月31日(月)の21日間
4. 回答者数： 67人
5. 回答者の属性： 男性64.2%、女性35.8%。平均年齢36歳。
6. 第1回の位置づけ： 基礎データの収集及びマルチメディア放送への期待について

■調査結果について

- ・携帯端末向けマルチメディア放送で見たい、聴きたいコンテンツは、最大が「音楽番組」で7割超のユーザーが回答した。次いでニュース番組を約2/3のユーザーが回答した。音楽番組、ニュース番組への期待が大きいことが判明した。
- ・8割のユーザーが携帯端末での生放送に期待をしている。生放送で見たい番組分野としては、「コンサート・音楽イベント(35.8%)」、「国内のスポーツ試合(32.8%)」、「バラエティ番組(31.3%)」が特に期待が大きいことが判明した。
- ・自由回答としては、「ハイクオリティなサウンド」、「マルチメディア放送ならではの地域情報番組」、「普通のラジオ番組をマルチメディア放送でも放送してほしい」、「地元のお得な情報や音楽、ファッションの情報を楽しみたい」、「放送で紹介されているお店や商品のデータが分かり、予約や購入まですぐ出来ること」等が挙げられた。

※調査結果本紙は以下をご参照下さい。

「マルチメディア放送モニター調査(第1回)調査

http://www.jfn.co.jp/mm_fukuoka/mm_research01.pdf

(註1)「ユビキタス特区」とは

2008年1月、総務省の「ICT改革促進プログラム」および「ICT国際競争力強化プログラム」に基づいて創設されたもの。新たな電波利用が必要な事業に対して実験局免許を交付するなどの環境整備を行ない、革新的なサービスの開発・実証実験を支援する事業として、2007年9月4日から10月31日までプロジェクトを募集。188件の提案が寄せられていた。

(註2)「福岡ユビキタス特区」とは

「地方ブロック向けマルチメディア放送」の先行実験を実施するために、TOKYO FMと株式会社CSK-ISが「ISDB-Tsbの拡張による3セグメント放送方式の実験」を共同提案した。2008年1月25日国の第一次指定が発表されたが、「福岡ユビキタス特区」はそのとき指定された22地区の一つ。

2009年3月31日(火)、九州総合通信局より「実験試験局」免許を付与され、現在は最大出力250ワットで電波発射をし、6セグメント(3セグメント放送×2)のサービス実験を展開している。

以上